

こじま やなぎはら
小島・柳原遺跡群



出土地：長野県長野市柳原

発見日：平成 28 (2016) 年 10 月 7 日

調査原因：一般国道 18 号 (長野東バイパス) 改築工事

法量：高さ：6.3 cm (残存値)、口径：7.8 cm、最大径：8.2 cm、
重さ：96.4g (保存処理後)、厚さ：0.07 ~ 0.2 cm

素材：銅を主体に鉛や微量のヒ素を含む銅合金

特徴：仏塔を模したつまみを持つ蓋と台脚付の身で一組となる容器。
今回出土した蓋は、塔先端の宝珠を欠く。また、X線 CT 観察と
保存処理作業で、模様が施されていたことが明らかになった。

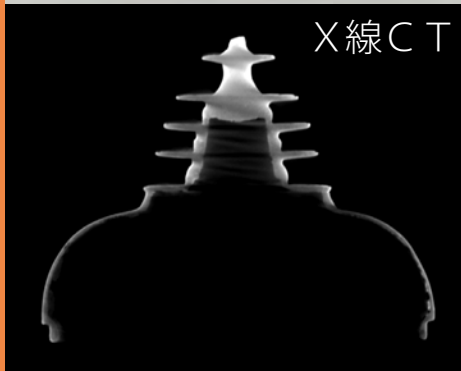
用途：仏具。香の入れ物であったと考えられ、柄香炉と一緒に使用
したとされる。

類例：国内出土品 栃木県日光男体山山頂遺跡出土品 (13 点)
国内伝世品 法隆寺 (1 組)、正倉院 (10 組)

とう まり がた こうす
 「塔鏡形合子」にせまる



出土品



X線CT



復元模造品

りゅうしゃ
 竜舎

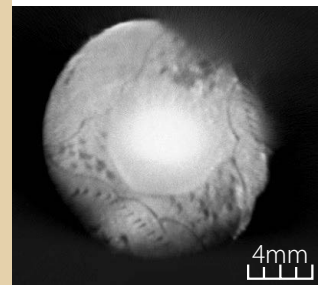
そうりん
 相輪

ふた
 蓋本体

真上から



A



竜舎上面X線CT画像

蓋本体上面拡大

